

(6) 教育課程の変更状況

① 大学院学校教育研究科

上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（平成16年規程第72号）の一部を改正する新旧対照表

改正後				現 行			
第1条 略				(趣旨) 第1条 この規程は、上越教育大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第64条の規定に基づき、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）における専攻の目的、開設する授業科目及びその履修方法並びに研究指導の方法について必要な事項を定める。			
(専攻の目的) 第2条 大学院の専攻において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。				(専攻の目的) 第2条 大学院の専攻において学生に修得させるべき能力等の教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。			
課程・専攻名		目 的		課程・専攻名		目 的	
修士課程	教育支援高度化専攻	学校現場における重要な課題である心の健康や豊かさに関する新しい知や理論を創出する教育・研究を実施し、学校教育を支えるための専門的力量を備えた高度専門職業人を養成する。		修士課程	学校教育専攻	教育における焦点化した問題の設定とその解決策を見出すための高度な教育研究を実施し、教科をはじめとする喫緊の課題の解決策を将来的視点から検討することのできる「構想力」を身に付けた多様な高度専門職業人を養成する。	
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校現場における実践に基づき、重要な課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育・研究を実施し、学校現場における即戦力と学校教育の継続可能な発展に貢献できる力量を備えた高度専門職業人を養成する。		専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校現場における実践に基づき、喫緊の課題を多面的・総合的に捉え解決する教育実践の新しい知や理論を創出する教育研究を実施し、学校教育における「即応力」を身に付けた高度専門職業人を養成する。	
(コース・領域) 第3条 学生は、課程・専攻ごとに次の表に掲げるコース・領域のいずれかに所属し履修するものとする。				(コース・領域) 第3条 学生は、課程・専攻ごとに次の表に掲げるコース・領域のいずれかに所属し履修するものとする。			
課程名	専攻名	コース名	領域名	課程名	専攻名	コース名	領域名
修士課程	教育支援高度化専攻	心理臨床研究コース	心理臨床領域	修士課程	学校教育専攻	発達支援教育コース	幼年教育領域 特別支援教育領域 学校ヘルスケア領域
						心理臨床コース	臨床心理領域
						学校教育深化コース	文理深化領域 芸能深化領域
						国際理解・日本語教育コース	国際理解・日本語教育領域
専門職学位課程	教育実践高度化専攻	学校教育実践研究コース	学校経営・学校心理領域 学級経営・授業経営領域 道徳・進路・生徒指導領域	専門職学位課程	教育実践高度化専攻	教職キャリア支援コース	教職キャリアアップ領域
						教科教育・学級経営実践コース	教科教育実践領域 学級経営実践領域
						先端教科・領域開発研究	小学校英語領域
		教科教育・教科複合実践	人文・社会領域				

	<u>研究コース</u>	<u>自然科学領域</u> <u>芸術創造領域</u> <u>生活・健康領域</u> <u>教科横断・総合学習領域</u>
	<u>発達支援教育実践研究コース</u>	<u>特別支援教育領域</u> <u>幼年教育領域</u> <u>学校ヘルスケア領域</u>

	<u>コース</u>	<u>プログラミング教育領域</u> <u>教科横断・教科実践開発領域</u> <u>学習支援領域</u>
	<u>学習臨床・授業研究コース</u>	<u>グローバル・総合領域</u> <u>ICT・情報領域</u> <u>学習臨床領域</u>
	<u>現代教育課題研究コース</u>	<u>発達と教育連携領域</u> <u>道徳・生徒指導領域</u>

2 各課程の専攻・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

課程名	専攻名	コース名	学 生 数
修士課程	<u>教育支援高度化専攻</u>	<u>心理臨床研究コース</u>	<u>約20人</u>
専門職学位課程	<u>教育実践高度化専攻</u>	<u>学校教育実践研究コース</u> <u>教科教育・教科複合実践研究コース</u> <u>発達支援教育実践研究コース</u>	<u>約60人</u> <u>約90人</u> <u>約40人</u>
計			210人

2 各課程の専攻・コースを履修する入学年次ごとの標準の学生数は、次の表に掲げるとおりとする。

課程名	専攻名	コース名	学 生 数
修士課程	<u>学校教育専攻</u>	<u>発達支援教育コース</u> <u>心理臨床コース</u> <u>学校教育深化コース</u> <u>国際理解・日本語教育コース</u> <u>教職キャリア支援コース</u>	<u>約40人</u> <u>約25人</u> <u>約35人</u> <u>約15人</u> <u>約15人</u>
専門職学位課程	<u>教育実践高度化専攻</u>	<u>教科教育・学級経営実践コース</u> <u>先端教科・領域開発研究コース</u> <u>学習臨床・授業研究コース</u> <u>現代教育課題研究コース</u>	<u>約60人</u> <u>約40人</u> <u>約35人</u> <u>約35人</u>
計			300人

第4条 略

(教員免許状の取得)

第4条 修士課程及び専門職学位課程の各専攻・コース・領域において取得することができる教員の免許状の種類は、別表第1に掲げるとおりとする。

2 前項の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第5条 修士課程及び専門職学位課程の授業科目の区分・内容は、次の各号の表に掲げるとおりとする。

(1) 修士課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
(削る)	
専攻科目	<u>現代の教育と子どもの発達を俯瞰し、教育における多様なニーズに対応する際に必要な専門的力量的基礎となる学識と教養を身に付けるための科目、及び教育における心理的援助ニーズに対応する際に必要となる、心理臨床に関する高度な専門性を身に付けるために開設する。</u> また、各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。
自由科目	<u>教育に関連の深い諸問題、教育の背景・基礎となる諸問題に</u>

(授業科目の区分)

第5条 修士課程及び専門職学位課程の授業科目の区分・内容は、次の各号の表に掲げるとおりとする。

(1) 修士課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共通科目	<u>教職に求められる高度に専門的力量的基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。</u>
専攻科目	<u>現代の教育課題と学際研究の進展に対応した高度な専門性を形成するために、各専門領域に関わる専門科目及び学校教育に関する広範な専門分野における方法論と教育実践学へのアプローチに関する方法論について開設する。</u> また、各自の研究テーマを具体化する専門セミナーについて開設する。
実習科目	<u>他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場や</u>

について新しい動向も考慮し開設する。

(2) 専門職学位課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共通科目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。
コース別選択科目	深い学識と教養をもとにして学校現場における実践を意味づけ、的確に判断する力量を身に付けるために開設する。
実習科目	教育現場の状況を的確に把握し、他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場における実践を通して身に付けるために開設する。
自由科目	教育に関連の深い諸問題、教育の背景・基礎となる諸問題について新しい動向も考慮し開設する。

(削る)

第6条 略

第7条 略

第8条 略

第9条 略

企業等における実践を通して身に付けるために開設する。

(2) 専門職学位課程の授業科目

授業科目の区分	内 容
共通科目	教職に求められる高度に専門的な力量の基礎となる学識と教養及び技能を体系的に身に付けるために開設する。
コース別選択科目	深い学識と教養をもとにして学校現場における実践を意味づけ、的確に判断する力量を身に付けるために開設する。
実習科目	教育現場の状況を的確に把握し、他の人々と協働しながら適切に対応する力量を、学校現場における実践を通して身に付けるために開設する。
(新設)	

(3) 修士課程及び専門職学位課程共通の授業科目

授業科目の区分	内 容
自由科目	教育に関連の深い諸問題、教育の背景・基礎となる諸問題について新しい動向も考慮し開設する。

- 第6条 修士課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の30単位以上を修得しなければならない。
- 2 専門職学位課程の修了要件を満たすためには、別表第2に規定する当該課程の履修基準に基づき、所定の46単位以上を修得し、かつ、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める専修免許状又は一種免許状取得に係る所要の単位(以下「免許取得単位」という。)を修得していることとする。ただし、在留資格が留学である外国人学生は、免許取得単位の修得を要しない。
- 3 前条第3号の表に掲げる修士課程及び専門職学位課程共通の自由科目の単位は、修了要件に算入しないものとする。

(授業科目名、単位数、必修・選択等の区分等)

- 第7条 第5条各号の表に掲げる授業科目の区分に属する授業科目名及び単位数、必修・選択等については、別表第3に掲げるとおりとする。

(長期履修学生及び教育職員免許取得プログラム)

- 第8条 学則第59条第1項ただし書に規定する職業を有している等の事情により3年間にわたり計画的に教育課程を履修する者(以下「長期履修学生」という。)のうち、教育職員免許状の取得の所要資格を得させることを目的としたプログラム(以下「教育職員免許取得プログラム」という。)の受講を許可された者は、学校教育学部において開設する授業科目のうち、別に定める教育職員免許状の所要資格を得るための授業科目を履修することができる。
- 2 前項の規定により授業科目を履修し、当該授業科目の試験に合格した者に、所定の単位を与えるものとする。ただし、修得した単位は、学則第72条第1項及び第2項に規定する修了要件の単位数に含めることができない。
- 3 長期履修学生及び教育職員免許取得プログラムについて必要な事項は、別に定める。

(教職大学院1年制プログラム)

- 第9条 学則第59条第2項に規定する履修上の区分を教職大学院1年制プログラムとい

	<p>う。</p> <p>2 教職大学院1年制プログラムは、学則第72条第3項の規定に基づき、実習科目10単位のうち6単位について修得しているものとみなし、当該授業科目の履修を免除された者を対象とする。</p> <p>3 教職大学院1年制プログラムについて必要な事項は、別に定める。</p>
第10条 略	<p>(指導教員)</p> <p>第10条 学生には、研究指導又は修学指導を担当する指導教員を定めるものとする。</p> <p>2 指導教員について必要な事項は、別に定める。</p>
第11条 略	<p>(研究計画及び研究題目)</p> <p>第11条 修士課程の学生は、入学後速やかに指導教員の指導を受けて、別に定めるところに従い研究計画を立てるとともに、その研究題目を決定しなければならない。</p>
第12条 略	<p>(授業計画及び履修登録)</p> <p>第12条 学生は、当該年度内に履修しようとする授業科目について、別に定めるところに従い授業計画を立て、履修登録を行わなければならない。</p> <p>2 学生は、科目等履修生として履修する場合を除き、所属する課程とは異なる課程の授業科目の履修登録を行うことはできない。</p>
第13条 略	<p>(履修登録の上限)</p> <p>第13条 専門職学位課程の学生が1年間に履修登録できる単位数の上限は、36単位とする。ただし、教職大学院1年制プログラムを履修する学生にあってはこの限りでない。</p> <p>2 履修登録の上限に関し必要な事項は、別に定める。</p>
第14条 略	<p>(試験)</p> <p>第14条 試験は、定期試験及び臨時試験（小テストを含む。以下同じ。）とする。</p> <p>2 定期試験は、各授業科目の受講を終了した者について、学年末又は学期末に行うものとする。ただし、出席時数が単位修得に必要な授業時数の3分の2に達しない者は、原則として受験資格を失うものとする。</p> <p>3 定期試験を実施する科目について当該試験を受けない場合は、単位は与えないものとする。</p> <p>4 臨時試験は、授業担当教員が必要と認めるときは、随時行うことができる。</p>
第15条 略	<p>(追試験)</p> <p>第15条 病気その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者は、授業担当教員への願い出によって追試験を受けることができる。</p> <p>2 前項の病気その他やむを得ない理由とは、次の各号に掲げるものをいう。</p> <p>(1) 負傷又は疾病</p> <p>(2) 進学、就職試験等進路に関わるもの</p> <p>(3) 父母、兄弟姉妹及び祖父母に関わる忌引き</p> <p>(4) その他前3号と同等と認められる事由</p>
第16条 略	<p>(成績の評価)</p> <p>第16条 授業科目の成績は、S、A、B、C及びDの5種の評語をもって表し、当該評</p>

語に係る評価の基準点及び結果は、次の表に掲げるとおりとする。

評語	評価の基準点	評価の結果
S	100点 ～ 90点	合格（シラバスに記載された到達目標等を上回る水準に達している。）
A	89点 ～ 80点	合格（シラバスに記載された到達目標等を十分に達成している。）
B	79点 ～ 70点	合格（シラバスに記載された到達目標等を概ね達成している。）
C	69点 ～ 60点	合格（シラバスに記載された到達目標等の最低限度の水準に達している。）
D	59点 以下	不合格（シラバスに記載された到達目標等に達していない。）とし、単位を与えない。

- 2 成績の評価方法等で示した要件を満たさない場合は、評価対象外とする。
- 3 学生は、一度合格と判定された授業科目については、取り消すこと又は再履修することができない。

第17条 略

（成績の評価方法等）

第17条 成績の評価は、各授業科目の教育目標に対する学生の到達度を見るため、講義、演習、実験、実習及び実技等の授業形態に応じた適切な評価方法及び評価基準に基づき行うものとする。

- 2 成績の評価は、学期の途中においても適宜行うものとし、その結果を学生に明示することにより、教育目標への到達度を高められるよう配慮しなければならない。
- 3 成績の評価方法は、定期試験、臨時試験、課題レポート、発表、討論、提出作品、授業への参加態度、予習・復習等の自主的学修態度その他多様な要素を可能な限り組み合わせるものとする。
- 4 クラス又はグループ指定等を行う同一の授業科目については、当該科目の評価方法及び評価基準を統一しなければならない。

第18条 略

（不正行為）

第18条 試験の際に学生が不正行為を行った場合は、当該授業科目の受験は無効とし、その状況によっては当該学期の授業科目の受験全部が無効とすることがある。

（学位論文の提出及び審査等）

第19条 修士課程における学位論文についての研究の成果の提出、審査及び試験については、上越教育大学学位規則（平成16年規則第17号）の定めるところによる。

（学位論文の提出及び審査等）

第19条 修士課程における学位論文又は特定の課題についての研究の成果の提出、審査及び試験については、上越教育大学学位規則（平成16年規則第17号）の定めるところによる。

第20条 略

（修学指導）

第20条 指導教員は、学生に関する成績情報及び履修状況等を確認し恒常的に指導・助言を行うとともに、関係教職員と連携を図り、適切な修学指導を行うものとする。

- 2 指導教員が行う主な修学指導は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - (1) 年度当初の履修登録に際しての指導・助言（特に、未登録による不利益の防止及び期限内登録の徹底）
 - (2) 履修登録の削除又は追加を行うに際しての指導・助言

- (3) 病欠欠席等やむを得ない事由に対する履修上の指導・助言
 - (4) 授業料等の納付に係る指導・助言
 - (5) 学生の休学，復学，転学，留学，退学及び転コース・領域の願い出に対する適切な指導・助言
- 3 指導教員が交代するときは，修学指導状況の引継ぎを行わなければならない。

(オフィス・アワーの実施)

第21条 授業担当教員は，修学上の問題解決に役立てるため，あらかじめ各研究室等において学生からの履修相談や授業に関する質問等に応ずる時間帯（以下「オフィス・アワー」という。）を設定し，シラバス及び履修の手引等に公開することにより学生に的確に周知しなければならない。

2 オフィス・アワーの実施方法は，次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 授業担当教員は，毎週一定日において1時間以上のオフィス・アワーを設定すること。ただし，やむを得ない事情がある場合は，この限りでない。
- (2) オフィス・アワーの利用は，授業担当教員に対し学生からの事前連絡を要件とするものではないこと。ただし，オフィス・アワーの利用を希望する学生は，その時間の有効活用のため，授業担当教員に対し事前に相談等の内容を連絡するよう努めるものとする。
- (3) 非常勤講師等で研究室を有しない場合は，電子メール等により相談に対応すること。
- (4) 授業担当教員は，オフィス・アワーの実施状況及び実施方法を自ら点検し，必要に応じて改善に努めること。

(成績の通知)

第22条 学生の成績の通知を希望する父母等又は保証人がある場合は，学生の同意を得た上で通知するものとする。

2 成績の通知の時期は，各年度末とし，当該年度までに履修した授業科目の成績を掲載するものとする。ただし，次年度の在籍予定者に限るものとする。

(細則)

第23条 この規程に定めるもののほか，この規程の実施に必要な事項は，学長が定める。

別表第1（第4条関係）

専攻・コース・領域名			教員の免許状の種類（免許教科）	
修士課程	学校教育専攻	発達支援教育コース	幼年教育領域	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状
			特別支援教育領域	特別支援学校教諭専修免許状（視覚障害者に関する教育の領域，聴覚障害者に関する教育の領域，知的障害者に関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域，病弱者に関する教育の領域） 特別支援学校教諭一種免許状（視覚障害者に関する教育の領域，聴覚障害者に関する教育の領域，知的障害者に関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域）

第21条 略

第22条 略

第23条 略

別表第1（第4条関係）

専攻・コース・領域名			教員の免許状の種類（免許教科）	
修士課程	教育支援高度化専攻	心理臨床研究コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状	幼稚園教諭専修免許状（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ語，フランス語，宗教）

専門 職学 位課 程	教育実践高 度化専攻	学校教育実践 研究コース	学校経営 ・学校心 理領域	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数 学，理科，音楽，美術，保健体育，保 健，技術，家庭，職業，職業指導，英 語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴 史，公民，数学，理科，音楽，美術， 工芸，書道，保健体育，保健，看護， 家庭，情報，農業，工業，商業，水産， 福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ 語，フランス語，宗教）			教育の領域，病弱者に関する教育の領 域)	
			学級経営 ・授業経 営領域					
			道徳・進 路・生徒 指導領域					
			教科教育・教 科複合実践研 究コース					人文・社 会領域
								自然科学 領域
								芸術創造 領域
								生活・健 康領域
		発達支援教育 実践研究コー ス	教科横断 ・総合学 習領域					
			幼年教育 領域					
			特別支援 教育領域	特別支援学校教諭専修免許状（視覚障害 者に関する教育の領域，聴覚障害者に関 する教育の領域，知的障害者に関する 教育の領域，肢体不自由者に関する 教育の領域，病弱者に関する教育の領 域） 特別支援学校教諭一種免許状（視覚障害 者に関する教育の領域，聴覚障害者に関 する教育の領域，知的障害者に関する 教育の領域，肢体不自由者に関する 教育の領域，病弱者に関する教育の領 域）				
	学校ヘル スケア領 域	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数 学，理科，音楽，美術，保健体育，保 健，技術，家庭，職業，職業指導，英 語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴 史，公民，数学，理科，音楽，美術， 工芸，書道，保健体育，保健，看護， 家庭，情報，農業，工業，商業，水産， 福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ						
		学校ヘル スケア領 域	幼稚園教諭専修免許状（保健） 高等学校教諭専修免許状（保健） 養護教諭専修免許状 栄養教諭専修免許状					
		心理臨床コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語，社会，数 学，理科，音楽，美術，保健体育，保 健，技術，家庭，職業，職業指導，英 語，ドイツ語，フランス語，宗教） 高等学校教諭専修免許状（国語，地理歴 史，公民，数学，理科，音楽，美術， 工芸，書道，保健体育，保健，看護， 家庭，情報，農業，工業，商業，水産， 福祉，商船，職業指導，英語，ドイツ 語，フランス語，宗教）					
		学校教育深化 コース	文理深化 領域（国 語）	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語） 高等学校教諭専修免許状（国語）				
			文理深化 領域（英 語）	中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）				
			文理深化 領域（社 会）	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史，公 民）				
			文理深化 領域（数 学）	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学）				
			文理深化 領域（理 科）	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）				
			文理深化 領域（技 術）	中学校教諭専修免許状（技術） 高等学校教諭専修免許状（工業）				
			文理深化 領域（家 庭）	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（家庭） 高等学校教諭専修免許状（家庭）				
			芸能深化 領域（音 楽）	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（音楽）				

		る。
計	30	

	学校教育と教員としての役割に関する科目 その他の領域に関する科目 実践場面分析演習		領域以上にわたり修得することが望ましい。
		2	修了時において所属するコース・領域に開設される授業科目2単位を修得するものとする。
専攻科目	課題研究プロジェクト科目 課題研究スタディーズ 専門科目 発達支援教育に関する科目 心理臨床に関する科目 学校教育深化に関する科目 国際理解・日本語教育に関する科目 教職キャリア支援に関する科目	10	課題研究プロジェクト科目2単位を含み、計10単位以上（心理臨床に関する科目の一部は、心理臨床コースの学生に限る。）を修得するものとする。
	専門セミナー	8	修了時において所属するコース・領域に開設される授業科目のうちから、2科目8単位を修得するものとする。
実習科目	課題研究フィールドワーク	4	全コース・領域共通（心理臨床コースの学生は、当該コースの科目に限る。）とし、4単位を修得するものとする。
	計	30	

(2) 専門職学位課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目 教科等の実践的な指導方法に関する科目 生徒指導及び教育相談に関する科目 学級経営及び学校経営に関する科目 学校教育と教員の在り方に関する科目	16	必修科目10単位を含めて、16単位以上を修得するものとする。 ただし、教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）の履修を許可された者については、必修科目10単位に加え、学級経営及び学校経営に関する科目2単位を含めて、12単位以上を修得するものとする。
コース別選択科目	プロフェッショナル科目 学校教育実践研究に関する科目 教科教育・教科複合実践研究に関する科目 発達支援教育実践研究に関する科目	20	学校支援フィールドワークに連動する「学校支援課題探究リフレクション2科目8単位」及び「学校支援課題探究プレゼンテーション2科目2単位」を標準とするが、コース・領域（分野）により、それぞれ2科目4単位以上又は2科目2単位以上で構成し、所属するコースに開設されるプロフェッショナル科

(2) 専門職学位課程

区分	授業科目の領域	単位	摘要
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する科目 教科等の実践的な指導方法に関する科目 生徒指導及び教育相談に関する科目 学級経営及び学校経営に関する科目 学校教育と教員の在り方に関する科目	18	全授業科目の領域にわたり18単位以上を修得するものとする。 ただし、教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）の履修を許可された者については、学級経営及び学校経営に関する科目4単位を含み、全科目領域にわたり12単位以上を修得するものとする。
コース別選択科目	学校支援プロジェクト科目 学校支援リフレクション 学校支援プレゼンテーション プロフェッショナル科目 教科教育・学級経営実践に関する科目 先端教科・領域開発研究に関する科目 学習臨床・授業研究に関する科目 現代教育課題研究に関する科目	18	「学校支援リフレクション」及び「学校支援プレゼンテーション」は、それぞれ2科目8単位及び2科目2単位の修得を標準とするが、コース・領域により、それぞれ2科目4単位以上及び2科目2単位以上とすることも可能とし、これらの単位を含み、所属するコース・領域に開設されるプロフェッショナル

実習 科目	学校 支援 プロ ジェ クト 科目	学校支援課題探究リフレクション	10	目と合わせて20単位以上（教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）の履修を許可された者については、24単位以上）を修得するものとする。 全コース（領域）共通とし、10単位を修得するものとする。 ただし、1年制プログラムの履修を許可された者は、実習科目のうち、6単位分の履修を免除する。
		学校支援課題探究プレゼンテーション		
		学校支援フィールドワーク		
計			46	

実習 科目	学校支援フィールドワーク		10	科目と合わせて18単位以上を修得するものとする。 ただし、教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）の履修を許可された者については、「学校支援リフレクション2科目4単位」及び「学校支援プレゼンテーション2科目4単位」を含み、24単位以上を修得するものとする。 全コース・領域共通とし、2科目10単位を修得するものとする。 ただし、カリキュラム・マネジメント・プロフェッショナル育成プログラム（1年制）又は教育経営プロフェッショナル育成プログラム（1年制）いずれかの1年制プログラムの履修を許可された者については、実習科目10単位のうち、6単位を履修したもののみとする。
	学校支援フィールドワーク			
	計			

別表第3（第7条関係）

1 修士課程
専攻科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
専 門 科 目	心理臨床研究コ ース	臨床心理学特論Ⅰ	L 2	
		臨床心理学特論Ⅱ	L 2	
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	L 2	
		臨床心理面接特論Ⅱ	L 2	
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	S 2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	S 2	
		臨床心理基礎実習	P 2	
		臨床心理実習ⅠA（心理実践実習ⅠA）		P 1
		臨床心理実習ⅡA（心理実践実習ⅡA）		P 4
		心理実践実習ⅠB		P 2
		心理実践実習ⅡB		P 4
		臨床心理実習ⅡB		P 2
学校臨床心理学特論（教育分野に關す		L 2		

別表第3（第7条関係）

1 修士課程
(1) 共通科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
教育課程 の編成及 び実施に 關する科 目	全コース	カリキュラム開発・デザインA		L 2
		カリキュラム開発・デザインB		L 2
教科等の 指 導 内 容、指 導 方法に關 する科目		教育方法の理論と実践A		L 2
		教育方法の理論と実践B		L 2
		教育方法の理論と実践C		L1・S1
		教科教育の理論と実際		L 2
発 達 支 援、教育 相談に關 する科目		心の健康教育特論（心の健康教育に關する理論と実践）		L 2
		特別支援教育の理論と実践 学校臨床心理実践法		L 2

	る理論と支援の展開)		
	投映法特論	L 2	
	臨床心理地域援助特論	L 2	
	心理学統計法特論	L1・S1	
	応用行動分析学特論	L 2	
	対人関係学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	L 2	
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	L 2	
	発達障害学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	L 2	
	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	L 2	
	産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	L 2	
	心の健康教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	L 2	
	発達心理学特論	L 2	
	臨床心理学研究法特論	L 2	
専門セミナー	心理臨床研究セミナーⅠ	S 4	
	心理臨床研究セミナーⅡ	S 4	

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義, 「S」は演習, 「P」は実験, 実習及び実技をそれぞれ示す。

学校教育と教員としての役割に関する科目		学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)		L 2
		学校教育と共生社会		L 2
その他の領域に関する科目		教育課程行政特論		L 2
		海外教育特別研究A		P 2
		海外教育特別研究B		P 2
		海外教育特別研究C		P 2
		海外教育特別研究D		P 2
		海外フィールドスタディ		P 4
実践場面分析演習	発達支援教育コース	<幼年教育> 実践場面分析演習「幼年教育」	S 2	
		<特別支援教育> 実践場面分析演習「特別支援教育」	S 2	
心理臨床コース	学校教育深化コース	<学校ヘルスケア> 実践場面分析演習「学校ヘルスケア」	S 2	
		実践場面分析演習「心理臨床」	S 2	
		<文理深化・国語> 実践場面分析演習「国語」	S 2	
		<文理深化・英語> 実践場面分析演習「英語」	S 2	
		<文理深化・社会> 実践場面分析演習「社会」	S 2	
		<文理深化・数学> 実践場面分析演習「数学」	S 2	
		<文理深化・理科> 実践場面分析演習「理科」	S 2	
		<文理深化・技術> 実践場面分析演習「技術」	S 2	
		<文理深化・家庭> 実践場面分析演習「家庭」	S 2	
		<芸能深化・音楽> 実践場面分析演習「音楽」	S 2	
		<芸能深化・美術> 実践場面分析演習「美術」	S 2	
		<芸能深化・保健体育> 実践場面分析演習「体育」	S 2	
国際理解・日本語教育コース 教職キャリア支援コース		実践場面分析演習「国際理解・日本語教育」 実践場面分析演習「教職キャリア」	S 2 S 2	

(削る)

(2) 専攻科目

		特別支援教育研究法演習		S 4
		事例研究法・授業研究法特論		L 2
		聴覚障害心理・指導法特論		L 2
		視覚障害応用教育臨床実習		P 4
		聴覚障害応用教育臨床実習		P 4
		知的障害応用教育臨床実習		P 4
		肢体不自由応用教育臨床実習		P 4
		病弱応用教育臨床実習		P 4
		言語障害応用教育臨床実習		P 4
		発達障害応用教育臨床実習		P 4
		<学校ヘルスケア>		
		教科内容構成特論「保健」		L 2
		学校精神保健特論		L 2
		学校精神保健演習		S 2
		スポーツ健康科学特論		L1・S1
		生体情報分析実験		P 2
		学校養護特論		L 2
		学校養護演習		S 2
		養護社会関係論		L 2
		養護教諭教育・学習論		L 2
		食教育特論		L 2
		食教育演習		S 2
		健康栄養学特論		L 2
		健康栄養学演習		S 2
		栄養教諭教育論		L 2
		栄養教諭教育演習		S 2
		栄養情報解析論		L 2
		栄養情報解析演習		S 2
		学校健康教育特論		L 2
		学校健康教育演習		S 2
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		L 2
		臨床薬理学特論		L 2
		心理学統計法特論 I		L1・S1
		心理学統計法特論 II		L1・S1
		健康教育の方法及び技術		L1・S1
		対人関係学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		L 2
		幼年発達心理学		L 2
		子どもの発達研究法		L1・S1
		自閉症スペクトラム障害・情緒障害教育総論		L 1
心	心理臨床コース	臨床心理学特論 I	L 2	
理		臨床心理学特論 II	L 2	

	臨床に関する科目	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	L 2	
		臨床心理面接特論Ⅱ	L 2	
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）		S 2
		臨床心理査定演習Ⅱ		S 2
		臨床心理基礎実習		P 2
		臨床心理実習Ⅱ		P 2
		心理実践実習Ⅱ		P 1
		心理実践実習Ⅲ		P 4
		心理実践実習Ⅳ		P 2
		心理実践実習Ⅴ		P 2
		心理実践実習Ⅵ		P 2
		心理実践実習Ⅶ		P 2
		心理実践実習Ⅷ		P 2
		投映法特論		L 2
		臨床心理地域援助特論		L 2
		全コース		
		心理学統計法特論Ⅰ		L1・S1
		心理学統計法特論Ⅱ		L1・S1
		臨床心理学研究法特論		L 2
		発達心理学特論		L 2
		応用行動分析学特論		L 2
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		L 2
		対人関係学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		L 2
		心身医学特論		L 2
		臨床薬理学特論		L 2
		発達障害学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）		L 2
		司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）		L 2
		産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）		L 2
	学校教育深化に関する	<文理深化・国語>		
		教科内容構成特論「国語」		L 2
		国語科教育特論A		L 2
		国語科教育特論B		L 2
		国語科教育演習A		S 2
		国語科教育演習B		S 2
		国語学特論A		L 2
		国語学特論B		L 2
		国語学演習A		S 2
		国語学演習B		S 2

				被服衛生・機構学特論	L 1
				被服学特別実験	P 1
				食物学特論	L 2
				食物学特別実験	P 1
				住居学特論	L 2
				住居学演習	S 2
				児童学特論	L 2
				家庭科教育論	L 2
				家庭科教育学特論	L 2
				家庭科授業研究	S 2
				家庭科教育学演習	S 2
				<芸能深化・音楽>	
				教科内容構成特論「音楽」	L 2
				音楽教育研究法	L 2
				音楽教育学演習	S 2
				音楽教育と創作表現活動	L 2
				音楽教育と芸術表現活動	L 2
				ソルフェージュ特論A	S 1
				ソルフェージュ特論B	S 1
				声楽演奏研究Ⅰ（独唱）	S 2
				声楽演奏研究Ⅱ（アンサンブル）	S 2
				声楽演奏研究Ⅲ（合唱）	S 2
				音楽劇研究	S 2
				ピアノ演奏研究Ⅰ（独奏）	S 2
				ピアノ演奏研究Ⅱ（アンサンブルを含む。）	S 2
				ピアノ演奏研究Ⅲ	S 2
				鍵盤楽器音楽史	S 2
				管楽器演奏研究（独奏）	S 2
				管楽器教育研究	S 2
				器楽アンサンブル	S 2
				合奏教材研究	S 2
				指揮法研究	S 2
				作曲	S 2
				楽曲分析	S 2
				日本音楽研究	S 2
				音楽学特論A	L 2
				音楽学特論B	L 2
				音楽学演習	S 2
				和楽器演習	S 2
				民族音楽学特論	S 2
				<芸能深化・美術>	
				教科内容構成特論「図画工作・美術」	L 2
				美術科教育論	L 2
				美術科教育方法演習	S 2

		美術科教育教材開発演習		S 2
		美術史特論		L 2
		工芸・デザイン論		L 1
		人物画研究		P 1
		油彩画・版画研究		P 2
		日本画研究		P 2
		塑造研究		P 2
		人体表現研究		P 1
		実材研究		P 2
		視覚・メディアデザイン研究		P 2
		木工芸研究		S 2
		陶芸研究		P 2
		<芸能深化・保健体育>		
		教科内容構成特論「体育・保健体育」		L 2
		保健体育科教育特論		L 2
		保健体育科教育内容・指導論		L 2
		運動制御特論		L 2
		運動方法学演習（サッカー）		S 2
		運動方法学演習（武道）		S 2
		体育心理学特論		L 2
		スポーツ健康科学特論		L1・S1
	国際理解・日本語教育に関する科目	国際教育研究特論		L 2
		国際教育研究演習		S 2
		音楽教育と創作表現活動		L 2
		音楽教育と芸術表現活動		L 2
		民族音楽学特論		S 2
		和楽器演習		S 2
		日本画研究		L 2
		陶芸研究		P 2
		英語科教育原理特論		L 2
		国語学特論A		L 2
		国語学演習A		S 2
		日本語学特論		L 2
		日本語学演習		S 2
		日本語教育学特論		L 2
		日本語教育学演習		S 2
	教育キャリア支援	教職キャリア特論A		L 2
		教職キャリア特論B		L 2
		教職キャリア特論C		L 2
		教職キャリア特論D		L 2
		学習環境支援論		L 2
		自然地理学特論		L 2
		日本史特論A		L 2
		数学教育学実践論		L 2

小学校英語教育応用研究セミナー		S 4
異文化コミュニケーション基礎研究セミナー		S 4
異文化コミュニケーション応用研究セミナー		S 4
<文理深化・社会>		
地理学研究セミナー I		S 4
地理学研究セミナー II		S 4
日本史研究セミナー I		S 4
日本史研究セミナー II		S 4
世界史研究セミナー I		S 4
世界史研究セミナー II		S 4
倫理学研究セミナー I		S 4
倫理学研究セミナー II		S 4
宗教学研究セミナー I		S 4
宗教学研究セミナー II		S 4
法律学研究セミナー I		S 4
法律学研究セミナー II		S 4
経済学研究セミナー I		S 4
経済学研究セミナー II		S 4
社会学研究セミナー I		S 4
社会学研究セミナー II		S 4
社会科教育学研究セミナー I		S 4
社会科教育学研究セミナー II		S 4
<文理深化・数学>		
代数学研究セミナー I		S 4
代数学研究セミナー II		S 4
幾何学研究セミナー I		S 4
幾何学研究セミナー II		S 4
解析学研究セミナー I		S 4
解析学研究セミナー I I		S 4
数学教育学研究セミナー I		S 4
数学教育学研究セミナー II		S 4
<文理深化・理科>		
物理学研究セミナー I		S 4
物理学研究セミナー II		S 4
化学研究セミナー I		S 4
化学研究セミナー II		S 4
生物学研究セミナー I		S 4
生物学研究セミナー II		S 4
地学研究セミナー I		S 4
地学研究セミナー II		S 4
理科教育学研究セミナー I		S 4
理科教育学研究セミナー II		S 4
<文理深化・技術>		

メカトロニクス研究セミナー I		S 4
メカトロニクス研究セミナー II		S 4
応用電気理論研究セミナー I		S 4
応用電気理論研究セミナー II		S 4
情報技術研究セミナー I		S 4
情報技術研究セミナー II		S 4
技術科教育・木材加工研究セミナー I		S 4
技術科教育・木材加工研究セミナー II		S 4
技術科教育研究セミナー I		S 4
技術科教育研究セミナー II		S 4
<文理深化・家庭>		
家庭経営学研究セミナー I		S 4
家庭経営学研究セミナー II		S 4
被服学研究セミナー I		S 4
被服学研究セミナー II		S 4
食物学研究セミナー I		S 4
食物学研究セミナー II		S 4
児童学研究セミナー I		S 4
児童学研究セミナー II		S 4
家庭科教育学研究セミナー I		S 4
家庭科教育学研究セミナー II		S 4
<芸能深化・音楽>		
音楽教育研究セミナー I		S 4
音楽教育研究セミナー II		S 4
音楽学研究セミナー I		S 4
音楽学研究セミナー II		S 4
声楽研究セミナー I		S 4
声楽研究セミナー II		S 4
器楽研究セミナー I		S 4
器楽研究セミナー II		S 4
作曲研究セミナー I		S 4
作曲研究セミナー II		S 4
<芸能深化・美術>		
絵画教育基礎研究セミナー		S 4
絵画教育応用研究セミナー		S 4
彫刻教育基礎研究セミナー		S 4
彫刻教育応用研究セミナー		S 4
デザイン教育基礎研究セミナー		S 4
デザイン教育応用研究セミナー		S 4
工芸教育基礎研究セミナー		S 4
工芸教育応用研究セミナー		S 4
美術科教育基礎研究セミナー		S 4
美術科教育応用研究セミナー		S 4
<芸能深化・保健体育>		
運動方法学研究セミナー I		S 4

(削る)

	運動方法学研究セミナーⅡ 学校保健学研究セミナーⅠ 学校保健学研究セミナーⅡ 保健体育科教育研究セミナーⅠ 保健体育科教育研究セミナーⅡ		S 4 S 4 S 4 S 4 S 4
国際理解・日本語教育コース	国際理解・日本語教育基礎研究セミナー 国際理解・日本語教育応用研究セミナー		S 4 S 4
教職キャリア支援コース	教職キャリア研究セミナーⅠ 教職キャリア研究セミナーⅡ	S 4 S 4	

(3) 実習科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等	
			必 修	選 択
実習科目	全コース（心理臨床コースを除く。）	課題研究フィールドワークⅠ（学校）		P 2
		課題研究フィールドワークⅡ（学校）		P 2
		課題研究フィールドワークⅠ（学校外）		P 2
		課題研究フィールドワークⅡ（学校外）		P 2
		課題研究フィールドワーク（視覚障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（聴覚障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（知的障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（肢体不自由教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（病弱教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（言語障害教育臨床実習）		P 4
		課題研究フィールドワーク（発達障害教育臨床実習）		P 4
心理臨床コース	課題研究フィールドワーク（臨床心理実習Ⅰ・心理実践実習Ⅰ）	P 4		

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

2 専門職学位課程

(1) 共通科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法等	
				必 修	選 択
教育課程の編成及び	全コース	子どもの発達と学校のカリキュラム 社会に開かれた教育課程のマネジメント	1・2		L1・S1
			1・2		L1・S1

2 専門職学位課程

(1) 共通科目

区 分	対象とする コース	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法等	
				必 修	選 択
教育課程の編成及び	全コース	教育課程の編成・実施の実践と課題 教育課程の編成・実施とカリキュラム・マネジメント	1・2		L1・S1
			1・2		L1・S1

実施に関する科目	教育課程の編成・実施の実践と課題	1・2	L1・S1	L1・S1	実施に関する科目	カリキュラムマネジメントと学習過程	1・2		L1・S1
	Society5.0における教育課程の編成と実践	1・2		L1・S1		SDGs時代の教育課程の編成・実施の実際	1・2		L1・S1
	教科の本質を踏まえたカリキュラムデザインの理論と実践	1・2		L1・S1		子どもの発達と学校のカリキュラム	1・2		L1・S1
	SDGs時代の教育課程の編成・実施の実際	1・2		L1・S1		社会に開かれた教育課程のマネジメント	1・2		L1・S1
	教育課程の編成・実施とカリキュラム・マネジメント	1・2		L1・S1		教科の本質を踏まえた授業づくりの実践と課題	1・2		L1・S1
教科等の実践的な指導方法に関する科目	教科等の実践的な指導方法の実践と課題	1・2	L1・S1	L1・S1	教科等の実践的な指導方法に関する科目	生活科の教科特性に基づくスタートカリキュラム	1・2		L1・S1
	教科教育実践における理論と実践の往還	1・2		L1・S1		教科等の実践的な指導方法の実践と課題	1・2		L1・S1
	主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン	1・2		L2・S2		教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる授業づくりの実践と課題	1・2		L1・S1
	教科等の実践的な指導方法に関する事例研究	1・2		L1・S1		言語カリテラシーの学習デザイン	1・2		L1・S1
	言語力・リテラシーの学習デザイン	1・2		L1・S1		カリキュラム・マネジメントを育む理科学習デザイン論	1・2		L1・S1
	アクティブラーニングと授業研究	1・2		L1・S1		未来志向を促す課題を想定した各教科の授業デザイン	1・2		L1・S1
	I C Tを活用した教育・情報教育デザイン	1・2		L1・S1		教科教育実践における理論と実践の往還	1・2		L1・S1
	Life, STEAM, Education	1・2		L 2		道徳科における授業デザイン	1・2		L1・S1
	教科等の横断と実践開発	1・2		L1・S1		協同的な授業づくり	1・2		L1・S1
	探究型教科学習と授業デザイン	1・2		S 2		ファシリテーションと授業づくり	1・2		L1・S1
	主体的な子どもを育む授業づくりの理論と実際	1・2		L1・S1		主体的な子どもを育む授業づくりの理論と実際	1・2		S 4
	生徒指導及び教育相談に関する科目	子ども理解、生徒指導、教育相談の実践と課題		1・2		S 2	L1・S1		生徒指導及び教育相談に関する科目
生徒指導の理論と実践		1・2	L1・S1	教科の横断と開発	1・2		L 2		
特別な教育的ニーズのある子どもに対する指導の理論と実践Aー特別支援学校及び特別支援学級を中心にー		1・2	L1・S1	教科学習と授業デザイン	1・2		L1・S1		
特別な教育的ニーズのある子どもに対する指導の理論と実践Bー通常の学級及び通級指導教室を中心にー		1・2	L1・S1	I C Tを活用した教育・情報教育デザイン	1・2		L1・S1		
健康・安全・食の教育の理論と実践		1・2	L1・S1	アクティブラーニングと授業研究	1・2		L1・S1		
学級経営及び学校経営に関する科目	学級・学校の集団力学と経営実践	1・2	L1・S1	L1・S1	生徒指導及び教育相談に関する科目	子ども理解、生徒指導、教育相談の実践と課題	1・2		L1・S1
	教育の経営と社会	1・2		L1・S1		児童生徒理解と信頼関係に基づく生徒指導・教育相談	1・2		L1・S1
	学級経営、学校経営の実践と課題	1・2		L2・S2		子ども理解と問題行動に対する指導の課題と実践	1・2		L1・S1
	学級経営及び学校経営に関する事例研究	1・2		L2・S2		特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解	1・2		L1・S1
	SDGs時代における学級経営・学校経営の理論と実践	1・2		L1・S1		特別な教育的ニーズのある児童生徒	1・2		L1・S1
学校教育と教	教育の国際的動向と教育連携のデザイン	1・2		L1・S1					

員の在り方に関する科目	社会の変化に応じる教員の役割	1・2	L1・S1
	学校教育と教員の在り方に関する事例研究	1・2	L1・S1
	持続可能な教員研修論	1・2	L1・S1
	プロに学ぶ教師の在り方	1・2	L1・S1
	SDGs時代の学校教育と教員の在り方	1・2	L1・S1

	に対する教育実践と課題 生徒指導の理論と実践Aー道徳教育・特別活動・キャリア教育・学校教育相談の視点からー	1・2	S 2
	生徒指導の理論と実践Bーいじめ等 先端課題の理論と実践ー	1・2	S 2
学級経営及び学校経営に関する科目	学級経営, 学校経営の実践と課題	1・2	L1・S1
	「より良い集団づくりを目指す学級担任」と「授業検討会を組織する研究主任」の理論と実践	1・2	L1・S1
	協同的な学びを実現する学級経営	1・2	L1・S1
	学級経営の実践と課題	1・2	L1・S1
	学級・学校の集団力学と経営実践	1・2	L1・S1
	教育の経営と社会	1・2	L1・S1
学校教育と教員の在り方に関する科目	学校教育と教員の在り方に関する事例研究	1・2	L1・S1
	学校教育と教員の在り方に関する実践と課題	1・2	L2・S2
	教育の国際的動向と教育連携のデザイン	1・2	L1・S1
	社会の変化に応じる教員の役割	1・2	L1・S1

(2) コース別選択科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等		
				必修	選択	択
プロフェッショナルに関する科目	学校教育実践研究コース	<学校経営・学校心理領域>				
		子どもの認知発達論	1・2		S 2	
		発達と教育の評価	1・2		L1・S1	
		教師と子どもの社会心理学	1・2		L1・S1	
		現代の教師と教育の哲学	1・2		L1・S1	
		構造変動の教育社会学	1・2		L 2	
		包摂と排除の教育社会学	1・2		S 2	
		教育環境の条件整備とデザイン	1・2		L 2	
		教育法規の理解と学校における実践	1・2		L1・S1	
		学校組織連携論	1・2		L1・S1	
		学校危機管理論	1・2		L1・S1	
		教育組織マネジメント	1・2		L1・S1	
		現代の教育改革とビジョン	1・2		S 2	
		学校改善とカリキュラム・マネジメント	1・2		L1・S1	
		文化的言語的に多様な子どもの教育	1・2		L1・S1	
		SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2		L1・S1	
		教育研究における質的研究方法論	1・2		S 2	
カリキュラムマネジメントとカリキ	1・2		L1・S1			

(2) コース別選択科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等		
				必修	選択	択
学校支援プロジェクト科目	学校支援実践コース	教科教育・学級経営実践リフレクションI	1	S 4		
		教科教育・学級経営実践リフレクションII	1・2	S 4		
	先端教科・領域開発研究コース	先端教科・領域開発研究リフレクションI	1	S 4		
		先端教科・領域開発研究リフレクションII	2	S 4		
	学習臨床・授業研究コース	学習臨床・授業研究リフレクションI	1	S 4		
		学習臨床・授業研究リフレクションII	2	S 4		
	現代教育課題研究コース	<発達と教育連携> 現代教育課題研究リフレクションI (発達と教育連携)	1	S 2		
現代教育課題研究リフレクションII (発達と教育連携)		1・2	S 2			
	<道徳・生徒指導> 現代教育課題研究リフレクションI (道徳・生徒指導)	1	S 2			

関 する 科 目	英文法指導の理論と実践	1・2	L1・S1	先 端 教 科 ・ 領 域 開 発 研 究 に 関 する 科 目	先 端 教 科 ・ 領 域 開 発 研 究 コ ー ス	<コース共通>				
	英語音声指導の理論と実践	1・2	L1・S1			教科等の学習活動における困難の実態と支援	1・2		L1・S1	
	英語インタラクシオン指導の理論と実践	1・2	L1・S1			<小学校英語>				
	英語授業と協同学習	1・2	L1・S1			小学校英語授業と協同学習	1・2		L1・S1	
	英語授業とファシリテーション技術	1・2	L1・S1			英語授業とファシリテーション技術	1・2		L1・S1	
	英語科教材分析の理論と実践	1・2	L1・S1			小学校英語教育概論	1・2		L1・S1	
	<人文・社会領域 (社会) >					英語科教育第二言語習得特論	1・2		L 2	
	社会系教科内容学 (地理) A	1・2	L 2			グローバル化と教育	1・2		L1・S1	
	社会系教科内容学 (地理) B	1・2	L 2			外国につながる複言語複文化の子どもたちの教育支援	1・2		L1・S1	
	社会系教科内容学 (地理) C	1・2	L 2			<プログラミング教育>				
	地域研究フィールドワーク	1・2	P 1			教員に求められる研修とコミュニケーション	1・2		S 4	
	社会系教科内容学 (歴史) A	1・2	L 2			情報化社会における教育	1・2		S 2	
	社会系教科内容学 (歴史) B	1・2	L 2			教科におけるプログラミング教育	1・2		S 2	
	社会系教科内容学 (歴史) C	1・2	L 2			学校教育と統計・評価	1・2		S 2	
	社会系教科内容学 (公民) A	1・2	L 2			<教科横断>				
	社会系教科内容学 (公民) B	1・2	L 2			授業実践分析の理論と実際	1・2		L 2	
	社会系教科内容学 (公民) C	1・2	L 2			ことばと教育実践	1・2		S 2	
	社会系教科内容学 (公民) D	1・2	L 2			社会系教科の理論と実践ー地理教育を中核にー	1・2		L 2	
	社会系教科内容学 (公民) E	1・2	L 2			社会系教科の理論と実践ー歴史教育を中核にー	1・2		L 2	
	社会系教科内容学 (公民) F	1・2	L 2			社会系教科の理論と実践ー公民教育を中核にー	1・2		L 2	
	社会科・地理歴史科教育課程の理論と実際	1・2	L 2			教科横断に係る算数・数学教材論	1・2		L1・S1	
	社会科・公民科教育課程の理論と実際	1・2	L 2			理科教材研究	1・2		L 2	
	社会系授業づくりの理論と実践	1・2	L1・S1			「子ども・表現・学校」その実際と課題	1・2		S 2	
	社会系授業実践における評価と授業分析	1・2	L1・S1			状況論からの教育実践研究	1・2		L 2	
	主権者・シティズンシップ教育の理論と実践	1・2	L1・S1			教科横断と心理的な学習支援	1・2		S 2	
	社会系教育総合演習 I	1・2	S 1			技術科教育教材特論	1・2		L 2	
	社会系教育総合演習 II	1・2	S 1			<学習支援>				
社会系教育総合演習 III	1・2	S 1	学習活動に困難のある子どものアセスメントと支援	1・2		L1・S1				
社会系教育総合演習 IV	1・2	S 1	通級による指導と通常の学級における自立活動の指導	1・2		L1・S1				
<自然科学領域 (数学) >			学習活動に困難のある子どもの個別の指導計画作成	1・2		L1・S1				
教科内容構成「数学」の理論と実践	1・2	L1・S1	国際理解教育の理論と実際	1・2		L1・S1				
小中連携算数・数学の教材づくりの理論と実践	1・2	L1・S1	SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2		L1・S1				
中高連携数学科の理論と実践	1・2	L1・S1	総合学習カリキュラムデザイン	1・2		L1・S1				
算数科・数学科におけるICT活用	1・2	L1・S1	日本語教育演習	1・2		L1・S1				
算数・数学科の授業づくりの理論と実践	1・2	L1・S1								
<自然科学領域 (理科) >										
教科内容構成 (理科) の理論と実践 A	1・2	L1・S1								

楽曲分析の理論と実践	1・2		S 2
ソルフェージュ～聴き取りと実践場 面対応A	1・2		S 1
ソルフェージュ～聴き取りと実践場 面対応B	1・2		S 1
音楽実践総合演習Ⅰ	1・2		S 2
音楽実践総合演習Ⅱ	1・2		S 2
<芸術創造領域（美術）> 教科内容構成「図画工作・美術」の 理論と実践	1・2	S 2	
図画工作・美術科教育教材の理論と 実践	1・2		S 2
絵画表現の理論と実践Ⅰ（伝統絵画）	1・2		P 2
絵画表現の理論と実践Ⅱ（油彩・版 画）	1・2		P 2
彫刻表現の理論と実践	1・2		P 2
デザイン学習の理論と実践	1・2		P 2
工芸表現の理論と実践	1・2		P 2
人体表現研究の理論と実践	1・2		P 2
公共施設等を活用した展示の基礎理 論と実践演習	1・2	S 2	
鑑賞教育の理論と実践	1・2		S 2
<生活・健康領域（保健体育）> 保健体育科教育演習	1・2		S 2
保健体育科教育内容・指導論	1・2		L 2
運動方法学演習（武道）	1・2		S 2
運動学演習	1・2		S 2
教材としての身体運動科学	1・2		L1・S1
疾病予防教育の理論と実践	1・2		L1・S1
メンタルトレーニングを活用した学 習支援	1・2		S 2
<生活・健康領域（技術）> 教科内容構成「技術」の理論と実践 Ⅰ	1・2		S 2
教科内容構成「技術」の理論と実践 Ⅱ	1・2		S 2
材料加工の先端技術の教材開発と実 践	1・2	S 2	
生物育成の先端技術の教材開発と実 践	1・2	S 2	
エネルギー変換の先端技術の教材開 発と実践	1・2	S 2	
情報の先端技術の教材開発と実践	1・2	S 2	
プログラミング的思考の教材開発と 実践	1・2		S 2

	キャリア教育の実践	1・2		S 2
全コース	<共通> 教育課程行政特論	1・2		L 2
	海外教育実践研究A	1・2		P 2
	海外教育実践研究B	1・2		P 2
	海外教育実践研究C	1・2		P 2
	海外教育実践研究D	1・2		P 2
	海外実践フィールドスタディ	1・2		P 4

ものづくり教材の開発と実践	1・2		S 2
技術科教育教材特論	1・2		L 2
<生活・健康領域（家庭）>			
教科内容構成「家庭」の理論と実践	1・2		L1・S1
21世紀を生き抜くための「家庭」	1・2		L1・S1
「家庭」における理論と実践（被服学）	1・2		L1・S1
「家庭」における理論と実践（食物学）	1・2		L1・S1
「家庭」における理論と実践（住居学）	1・2		L1・S1
「家庭」における理論と実践（児童学）	1・2		L1・S1
家庭科教育教材の理論と実践	1・2		L1・S1
<教科横断・総合学習領域（教科横断・探究的学習）>			
言語と対話的学びのデザイン	1・2		L1・S1
国語科表現教育の理論と実際	1・2		L1・S1
理科授業の理論と実践（野外観察）	1・2		L1・S1
技術科教育教材特論	1・2		L 2
主体的学びの臨床過程	1・2		L1・S1
創造行為と相互作用による探究的学習過程	1・2		L1・S1
状況論からの教育実践研究	1・2		L 2
メンタルトレーニングを活用した学習支援	1・2		S 2
教材としての身体運動科学	1・2		L1・S1
教科内容構成「総合的な学習の時間」の理論と実践	1・2		L1・S1
教科内容構成「生活」の理論と実践	1・2		L1・S1
国際理解教育の理論と実際	1・2		L1・S1
SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2		L1・S1
日本語教育演習	1・2		S 2
文化的言語的に多様な子どもの教育	1・2		L1・S1
文化的言語的に多様な子どもへの言語教育法	1・2		L1・S1
文化的言語的に多様な子どもへの日本語教育実習	1・2		P 1
地域・家族の暮らしの探究学習の理論と実際	1・2		L1・S1
総合的な学習を中核とした教育課程論	1・2		L1・S1
総合学習カリキュラムデザイン	1・2		L1・S1
生活科・総合的な学習における体験	1・2		L1・S1

	学習			
	総合学習におけるICT活用	1・2		S 2
	学校教育と統計・評価	1・2		S 2
	<教科横断・総合学習領域（グローバル・総合）>			
	教科内容構成「総合的な学習の時間」の理論と実践	1・2		L1・S1
	教科内容構成「生活」の理論と実践	1・2		L1・S1
	国際理解教育の理論と実際	1・2		L1・S1
	SDGsに対応したワークショップの理論と実際	1・2		L1・S1
	日本語教育演習	1・2		S 2
	文化的言語的に多様な子どもの教育	1・2		L1・S1
	文化的言語的に多様な子どもへの言語教育法	1・2		L1・S1
	文化的言語的に多様な子どもへの日本語教育実習	1・2		P 1
	地域・家族の暮らしの探究学習の理論と実際	1・2		L1・S1
	総合的な学習を中核とした教育課程論	1・2		L1・S1
	総合学習カリキュラムデザイン	1・2		L1・S1
	生活科・総合的な学習における体験学習	1・2		L1・S1
	総合学習におけるICT活用	1・2		S 2
	自然環境学習の理論と実践	1・2		L1・S1
	教育研究における質的研究方法論	1・2		S 2
	学校教育と統計・評価	1・2		S 2
	プログラミング教育におけるICT活用	1・2		S 2
	情報・コミュニケーションの理論と実践	1・2		L1・S1
	教育工学の理論と実践	1・2		L1・S1
発達支援教育実践研究に関	<特別支援教育領域>			
	特別支援教育原論	1・2		L1・S1
	特別支援教育と自立活動	1・2		L1・S1
	視覚障害心理・生理学論	1・2		L1・S1
	聴覚障害心理・生理学論	1・2		L1・S1
	知的障害心理・生理学論	1・2		L1・S1
	肢体不自由心理・生理学論	1・2		L1・S1
	病弱心理・生理学論	1・2		L1・S1
	視覚障害教育課程・指導法	1・2		L1・S1
	聴覚障害教育課程・指導法	1・2		L1・S1
	知的障害教育課程・指導法(授業論)	1・2		L1・S1
	知的障害教育課程・指導法(自立活	1・2		L1・S1

する 科目		動指導論)				
		肢体不自由教育課程・指導法	1・2		L1・S1	
		病弱教育課程・指導法	1・2		L1・S1	
		発達障害・情緒障害教育総論	1・2		L1・S1	
		言語・重複障害教育総論	1・2		L1・S1	
		視覚障害教育総論	1・2		L 1	
		聴覚障害教育総論	1・2		L 1	
		知的・肢体・病弱教育総論	1・2		L 1	
		特別支援学校教育実習	1・2		L1・P2	
		重複障害教育論	1・2		L1・S1	
		特別支援教育研究法論	1・2		L1・S1	
		特別支援教育研究法論演習	1・2		S 4	
		聴覚障害心理・指導法論	1・2		L1・S1	
		発達障害心理・指導法論	1・2		L1・S1	
		小中学校における特別支援教育の課題と実践	1・2		L1・S1	
		<幼年教育領域>				
		幼年発達心理学	1・2		L1・S1	
		子どもの発達研究法	1・2		L1・S1	
		幼年教育・保育論	1・2		L1・S1	
		幼年教育・保育研究	1・2		L1・S1	
		子どもの生活環境論	1・2		L1・S1	
		子どもの遊び研究	1・2		L1・S1	
		幼年期の子どもの教育と福祉	1・2		L1・S1	
		教育福祉研究	1・2		L1・S1	
		<学校ヘルスケア領域>				
		教科内容構成「保健」の理論と実践	1・2		L 2	
		疾病予防教育の理論と実践	1・2		L1・S1	
		健康教育の方法と技術	1・2		L1・S1	
		養護実践の内容と方法	1・2		L1・S1	
		保健室の機能と経営	1・2		L1・S1	
		健康相談活動の方法と技術	1・2		L1・S1	
		現代的な健康課題の把握と養護実践の組織化	1・2		L1・S1	
		幼年発達心理学	1・2		L1・S1	
		子どもの発達研究法	1・2		L1・S1	
		食教育の理論と実践	1・2		L1・S1	
		子どもの健康栄養学	1・2		L1・S1	
		子どもの栄養管理	1・2		L1・S1	
	全 科目	全コース	<共通>			
			国際教育研究論	1・2		L 2
国際教育研究の実践と課題			1・2		S 2	
日本と教育開発			1・2		L1・S1	
Development of Japan and Educational Issues			1・2		L1・S1	

			日本語教育実践演習	1・2		S 2
			日本語教育方法論	1・2		L1・S1
			日本の歴史と文化	1・2		L 2
			日本文化演習	1・2		S 2
			海外教育実践研究A	1・2		P 2
			海外教育実践研究B	1・2		P 2
			海外教育実践研究C	1・2		P 2
			海外教育実践研究D	1・2		P 2
学校 支援 プロジェクト 科目	学校教育実践研究コース	<学校経営・学校心理領域>	学校教育実践研究リフレクションⅠ (学校経営・学校心理)	1	S 2	
			学校教育実践研究リフレクションⅡ (学校経営・学校心理)	1・2	S 2	
		<学級経営・授業経営領域>	学校教育実践研究リフレクションⅠ (学級経営・授業経営)	1	S 4	
			学校教育実践研究リフレクションⅡ (学級経営・授業経営)	1・2	S 4	
		<道徳・進路・生徒指導領域>	学校教育実践研究リフレクションⅠ (道徳・進路・生徒指導)	1	S 2	
			学校教育実践研究リフレクションⅡ (道徳・進路・生徒指導)	2	S 2	
	教科教育・教科複合実践研究コース	<人文・社会領域(国語)>	教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(人文・社会:国語)	1	S 4	
			教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(人文・社会:国語)	2	S 4	
		<人文・社会領域(英語)>	教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(人文・社会:英語)	1	S 4	
			教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(人文・社会:英語)	2	S 4	
		<人文・社会領域(社会)>	教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(人文・社会:社会)	1	S 2	
			教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(人文・社会:社会)	2	S 2	
		<自然科学領域(数学)>	教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学:数学)	1		S 4
			教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学:数学)	2		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学)(特別)	1			S 4		

教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学)(特別)	1		S 4
<自然科学領域(理科)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学:理科)	1		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学:理科)	2		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学)(特別)	1		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学)(特別)	1		S 4
<自然科学領域(情報)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学:情報)	1		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学:情報)	2		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(自然科学)(特別)	1		S 4
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(自然科学)(特別)	1		S 4
<芸術創造領域(音楽)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(芸術創造:音楽)	1	S 2	
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(芸術創造:音楽)	2	S 2	
<芸術創造領域(美術)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(芸術創造:美術)	1	S 4	
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(芸術創造:美術)	2	S 4	
<生活・健康領域(保健体育)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(生活・健康:保健体育)	1	S 4	
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(生活・健康:保健体育)	2	S 4	
<生活・健康領域(技術)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(生活・健康:技術)	1	S 4	
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(生活・健康:技術)	2	S 4	
<生活・健康領域(家庭)>			
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ(生活・健康:家庭)	1	S 4	
教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ(生活・健康:家庭)	2	S 4	

		<p><教科横断・総合学習領域（教科横断・探究的学習）> 教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ（教科横断・総合学習：教科横断・探究的学習）</p>	1	S 4	
		教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ（教科横断・総合学習：教科横断・探究的学習）	1・2	S 4	
		<p><教科横断・総合学習領域（グローバル・総合）> 教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅠ（教科横断・総合学習：グローバル・総合）</p>	1	S 4	
		教科教育・教科複合実践研究リフレクションⅡ（教科横断・総合学習：グローバル・総合）	2	S 4	
	発達支援教育実践研究コース	<p><特別支援教育領域> 発達支援教育実践研究リフレクションⅠ（特別支援教育）</p>	1	S 4	
		発達支援教育実践研究リフレクションⅡ（特別支援教育）	2	S 4	
		<p><幼年教育領域> 発達支援教育実践研究リフレクションⅠ（幼年教育）</p>	1	S 4	
		発達支援教育実践研究リフレクションⅡ（幼年教育）	2	S 4	
		<p><学校ヘルスケア領域> 発達支援教育実践研究リフレクションⅠ（学校ヘルスケア）</p>	1	S 4	
		発達支援教育実践研究リフレクションⅡ（学校ヘルスケア）	2	S 4	
学校支援課題探究プレゼンター	学校教育実践研究コース	<p><学校経営・学校心理領域> 学校教育実践研究プレゼンテーションⅠ（学校経営・学校心理）</p>	1	S 2	
		学校教育実践研究プレゼンテーションⅡ（学校経営・学校心理）	1・2	S 2	
		<p><学級経営・授業経営領域> 学校教育実践研究プレゼンテーションⅠ（学級経営・授業経営）</p>	1	S 1	
		学校教育実践研究プレゼンテーションⅡ（学級経営・授業経営）	1・2	S 1	
		<p><道徳・進路・生徒指導領域> 学校教育実践研究プレゼンテーションⅠ（道徳・進路・生徒指導）</p>	1	S 1	
		学校教育実践研究プレゼンテーションⅡ（道徳・進路・生徒指導）	2	S 1	

シ ョ ン	教科教育・ 教科複合実 践研究コー ス	ンⅡ（道徳・進路・生徒指導）			
		<人文・社会領域（国語）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（人文・社会：国語）	1	S 1	
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（人文・社会：国語）	2	S 1	
		<人文・社会領域（英語）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（人文・社会：英語）	1	S 1	
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（人文・社会：英語）	2	S 1	
		<人文・社会領域（社会）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（人文・社会：社会）	1	S 1	
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（人文・社会：社会）	2	S 1	
		<自然科学領域（数学）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学：数学）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学：数学）	2		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学）（特別）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学）（特別）	1		S 1
		<自然科学領域（理科）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学：理科）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学：理科）	2		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学）（特別）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学）（特別）	1		S 1
		<自然科学領域（情報）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学：情報）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学：情報）	2		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅠ（自然科学）（特別）	1		S 1
		教科教育・教科複合実践研究プレゼ ンテーションⅡ（自然科学）（特別）	1		S 1
		<芸術創造領域（音楽）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼ	1	S 1	

	ンテーションⅠ（芸術創造：音楽） 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（芸術創造：音楽）	2	S 1	
	<芸術創造領域（美術）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（芸術創造：美術）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（芸術創造：美術）	2	S 1	
	<生活・健康領域（保健体育）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（生活・健康：保健体育）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（生活・健康：保健体育）	2	S 1	
	<生活・健康領域（技術）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（生活・健康：技術）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（生活・健康：技術）	2	S 1	
	<生活・健康領域（家庭）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（生活・健康：家庭）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（生活・健康：家庭）	2	S 1	
	<教科横断・総合学習領域（教科横断・探究的学習）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（教科横断・総合学習：教科横断・探究的学習）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（教科横断・総合学習：教科横断・探究的学習）	1・2	S 1	
	<教科横断・総合学習領域（グローバル・総合）> 教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅠ（教科横断・総合学習：グローバル・総合）	1	S 1	
	教科教育・教科複合実践研究プレゼンテーションⅡ（教科横断・総合学習：グローバル・総合）	2	S 1	
発達支援教育実践研究コース	<特別支援教育領域> 発達支援教育実践研究プレゼンテーションⅠ（特別支援教育）	1	S 4	
	発達支援教育実践研究プレゼンター	2	S 4	

		シヨンII (特別支援教育)			
		<幼年教育領域> 発達支援教育実践研究プレゼンテーションI (幼年教育)	1	S 1	
		発達支援教育実践研究プレゼンテーションII (幼年教育)	2	S 1	
		<学校ヘルスケア領域> 発達支援教育実践研究プレゼンテーションI (学校ヘルスケア)	1	S 1	
		発達支援教育実践研究プレゼンテーションII (学校ヘルスケア)	2	S 1	

(3) 実習科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
学校支援プロジェクト科目	全コース	学校支援フィールドワークI (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (ストレート)	2		P 5
		学校支援フィールドワークI (現職)	1		P 3
		学校支援フィールドワークII (現職)	1・2		P 3
		学校支援フィールドワークI (特別)	1		P 2
		学校支援フィールドワークII (特別)	1・2		P 2
		学校教育実践研究コース	<学校経営・学校心理領域> 学校支援フィールドワーク (特別：教育経営)	1	
	発達支援教育実践研究コース	<特別支援教育領域> 学校支援フィールドワークI (視覚障害教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (視覚障害応用教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5
		学校支援フィールドワークI (聴覚障害教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (聴覚障害応用教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5
		学校支援フィールドワークI (知的障害教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (知的障害応用教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5
		学校支援フィールドワークI (肢体不自由教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (肢体不自由教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5

(3) 実習科目

区分	対象とするコース	授業科目	履修年次	単位数及び授業方法等	
				必修	選択
学校支援フィールドワーク	全コース	学校支援フィールドワークI (ストレート)	1		P 5
		学校支援フィールドワークII (ストレート)	2		P 5
		学校支援フィールドワークI (現職)	1		P 3
		学校支援フィールドワークII (現職)	1・2		P 3
		学校支援フィールドワークI (特別)	1		P 2
		学校支援フィールドワークII (特別)	1・2		P 2
	現代教育課題研究コース	学校支援フィールドワーク (特別：教育経営)	1		P 4

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

不自由応用教育臨床実習) (ストレート)			
学校支援フィールドワークⅠ (病弱教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (病弱応用教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (特別な教育的ニーズのある子どもの応用教育臨床実習) (ストレート)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (特別な教育的ニーズのある子どもの応用教育臨床実習) (ストレート)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (視覚障害教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (視覚障害応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (聴覚障害教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (聴覚障害応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (知的障害教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (知的障害応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (肢体不自由教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (肢体不自由応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (病弱教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (病弱応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (特別な教育的ニーズのある子どもの応用教育臨床実習) (現職)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (特別な教育的ニーズのある子どもの応用教育臨床実習) (現職)	2		P 5
<学校ヘルスケア領域>			
学校支援フィールドワークⅠ (養護) (ストレート)	1		P 5
学校支援フィールドワークⅡ (養護) (ストレート)	2		P 5
学校支援フィールドワークⅠ (栄養) (ストレート)	1		P 5

	学校支援フィールドワークⅡ(栄養) (ストレート)	2	P 5
	学校支援フィールドワークⅠ(養護) (現職)	1	P 5
	学校支援フィールドワークⅡ(養護) (現職)	2	P 5
	学校支援フィールドワークⅠ(栄養) (現職)	1	P 5
	学校支援フィールドワークⅡ(栄養) (現職)	2	P 5

(4) 自由科目

区 分	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法
自由 科目	特別研究セミナーⅠ	2	S 2
	特別研究セミナーⅡ	2	S 2

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義, 「S」は演習, 「P」は実験, 実習及び
実技をそれぞれ示す。

(削る)

(新設)

3 修士課程及び専門職学位課程共通

区 分	授 業 科 目	履修 年次	単位数及び授業方法
自由 科目	博士課程進学特別セミナーⅠ	1・2	S 2
	博士課程進学特別セミナーⅡ	1・2	S 2

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義, 「S」は演習, 「P」は実験, 実習及び
実技をそれぞれ示す。

附 則

- この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 令和3年度以前に大学院学校教育研究科に入学した学生については、この規程による改正後の上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表第3に規定する修士課程又は専門職学位課程の授業科目については、履修することができる。
- 前項ただし書の規定により修得した単位は、修士課程の修了要件30単位又は専門職学位課程の修了要件46単位に算入しない。

(改正理由)

令和4年度大学院改組に伴い、所要の改正を行うものである。

【学内規則集 第7章 教務】

② 学校教育学部

上越教育大学学校教育学部履修規程（平成16年規程第70号）の一部を改正する新旧対照表

改正後			現 行		
第1条～第6条 略			第1条～第6条 略		
(授業科目の区分) 第7条 授業科目の区分・内容は、次の表に掲げるとおりとする。			(授業科目の区分) 第7条 授業科目の区分・内容は、次の表に掲げるとおりとする。		
授業科目の区分	内 容		授業科目の区分	内 容	
人間教育学関連科目	教員の原点である人間理解を、体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。		人間教育学関連科目	教員の原点である人間理解を、体験と観察・参加を通じて実践的に深めることを目的とする科目群である。	
相互コミュニケーション科目	初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である。		相互コミュニケーション科目	初等教員として求められている教育的情報処理能力と表現能力を育成するための科目群である。	
ブリッジ科目	十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培い、さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。		ブリッジ科目	十分な基礎学力を補習するとともに初等の教科専門性を培い、さらに専門科目への橋渡しをするための科目群である。	
教育実践科目	各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によって教育実践力を養成することを目的とする科目群である。		教育実践科目	各教科の指導法、ガイダンス及び教育実習によって教育実践力を養成することを目的とする科目群である。	
特色教育科目	本学が取り組んでいる特色ある教育を広く紹介し、未来の学校教育に対する確かな展望の形成を目指す科目である。		(新設)		
教職実践演習科目	教員として必要な知識技能を修得したことを確認するための科目である。		教職実践演習科目	教員として必要な知識技能を修得したことを確認するための科目である。	
専門科目	コース・領域ごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。		専門科目	コース・領域ごとに専門科目、専門セミナー及び実践セミナーから構成され、総合的かつ専門的な問題解決能力の形成を目指すための科目群である。	
卒業研究	コース・領域の専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果をまとめあげるための科目である。		卒業研究	コース・領域の専門科目に関する修業を集約発展させて、その成果をまとめあげるための科目である。	
(卒業要件と履修単位の区分) 第8条 卒業要件を満たすためには、学部に4年以上在学し、次の表に掲げる授業科目の区分ごとの単位に基づき133単位を修得しなければならない。			(卒業要件と履修単位の区分) 第8条 卒業要件を満たすためには、学部に4年以上在学し、次の表に掲げる授業科目の区分ごとの単位に基づき134単位を修得しなければならない。		
区 分			卒業要件単位		
			右記以外のコース	幼年教育コース	
人間教育学関連科目	人間教育学セミナー	教職の意義等に関する科目	2		
		体験学習	2		
	実践的人間理解科目	スポーツ実践	2		
		観察・参加実習	1		
		異文化理解	8		
		憲法と教育	2		
	基礎的人間形成科目	教育の基礎理論	12	14	
指導法の基礎理論		8	18		
区 分			卒業要件単位		
			右記以外のコース	幼年教育コース	
人間教育学関連科目	人間教育学セミナー	教職の意義等に関する科目	2		
		体験学習	3		
	実践的人間理解科目	スポーツ実践	2		
		観察・参加実習	1		
		異文化理解	8		
		憲法と教育	2		
	基礎的人間形成科目	教育の基礎理論	14	16	
指導法の基礎理論		8	18		

相互コミュニケーション科目	情報表現	5	
ブリッジ科目	教科に関する専門的事項	20	
教育実践科目	各教科の指導法	20	
	ガイダンス	4	6
	教育実習	7	
特色教育科目		4	
教職実践演習科目		2	
専門科目	専門科目	20	6
	専門セミナー	8	
	(削る)		
卒業研究		4	
合 計		133	

相互コミュニケーション科目	情報表現	5	
ブリッジ科目	教科に関する専門的事項	20	
教育実践科目	各教科の指導法	20	
	ガイダンス	4	6
	教育実習	7	
(新設)			
教職実践演習科目		2	
専門科目	専門科目	20	6
	専門セミナー	8	
	実践セミナー	2	
卒業研究		4	
合 計		134	

第9条～第22条 略

第9条～第22条 略

別表 (第4条, 第9条関係)

別表 (第4条, 第9条関係)

区 分	対象とするコース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等			標準履修年次	摘 要
			必 修	選 択	自 由		
人間教育実践的人間理解科目	全コース	略					
		体験学習 ボランティア体験 学校ボランティアA(学校支援体験) 学校ボランティアB(学校支援体験) (削る)	P 1 L0.5・P0.5	L0.5・P0.5 L0.5・P0.5		1 1 2 3	
		略					
基礎的人間形成科目	全コース	<教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想> 教育本質論 比較教育学 学校・教師の歴史と文化 教育の哲学と思想 <幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程> 教育心理学概論(教育・学校心理学) 発達心理学 学習心理学(学習・言語心理学) 発達支援の心理学 健康・安全・食の教育入門 <教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)>	(2)	L 2 L 2 L 2 L 2	2 2 2 2	12単位以上を修得すること。 なお、幼年教育コースの学生は□1科目2単位を修得すること。	
							(2)

区 分	対象とするコース	授 業 科 目	単位数及び授業方法等			標準履修年次	摘 要
			必 修	選 択	自 由		
人間教育実践的人間理解科目	全コース	略					
		体験学習 ボランティア体験 学校ボランティアA(学校支援体験) 学校ボランティアB(学校支援体験) <u>生活の中の科学</u>	P 1 L0.5・P0.5	L0.5・P0.5 L0.5・P0.5		1 1 2 3 <u>2</u>	
		略					
基礎的人間形成科目	全コース	<教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想> 教育本質論 比較教育学 学校・教師の歴史と文化 教育の哲学と思想 <幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程> 教育心理学概論(教育・学校心理学) 発達心理学 学習心理学(学習・言語心理学) 発達支援の心理学 健康・安全・食の教育入門 <教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)>	(2)	L 2 L 2 L 2 L 2	2 2 2 2	14単位以上を修得すること。 なお、幼年教育コースの学生は□1科目2単位を修得すること。	
							(2)

現代教育 課題コー ス	〈学習臨床・授業研究〉 略 <u>教育学と情報通信技術の活用</u> 略		L 2		3	専攻する 領域から20 単位以上を 修得するこ と。
	〈発達と教育連携〉 略 心理学実験 略 教育評価の方法と技術（心理的アセスメント） <u>発達と教育連携基礎演習</u>			P 2	<u>2</u>	
			L 2		2	
		<u>S 2</u>			<u>3</u>	
	略					
心理臨床 コース	略 心理実習 心理学実験 略	P 2	<u>P 3</u>		4 <u>2</u>	20単位以 上を修得す ること。
	略					
教科内容 構成コー ス	略					専攻する 領域から20 単位以上を 修得するこ と。
	〈英語〉 略 (削る) <u>英語音響音声学</u> 略		L 2		3	
	略					
	〈美術〉 略 美術史演習・美術史実地研究 <u>美術科指導法（基礎論）</u> <u>美術科指導法（課程論）</u> <u>美術科指導法（方法論）</u> <u>美術科・工芸科指導法（教材論）</u> 工芸科指導法（基礎論） (削る)		S 2		3 <u>2</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>3</u> <u>3</u>	
		<u>L 2</u>			<u>2</u>	
		<u>L 2</u>			<u>2</u>	
		<u>S 2</u>			<u>3</u>	
略						
〈技術〉 略 中等技術科指導法（教材論） <u>実践セミナー「技術」</u>		L 2		2 <u>3</u>		
略						

現代教育 課題コー ス	〈学習臨床・授業研究〉 略 <u>教育学</u> 略		L 2		3	専攻する 領域から20 単位以上を 修得するこ と。
	〈発達と教育連携〉 略 心理学実験 略 教育評価の方法と技術（心理的アセスメント） (新設)			P 2	<u>3</u>	
			L 2		2	
	略					
心理臨床 コース	略 心理実習 心理学実験 略	P 2	<u>P 4</u>		4 <u>3</u>	20単位以 上を修得す ること。
	略					
教科内容 構成コー ス	略					専攻する 領域から20 単位以上を 修得するこ と。
	〈英語〉 略 <u>英文法</u> (新設) 略		L 2		<u>3</u>	
	略					
	〈美術〉 略 美術史演習・美術史実地研究 <u>中等美術科指導法（基礎論）</u> <u>中等美術科指導法（課程論）</u> <u>中等美術科指導法（教材論）</u> <u>中等美術科指導法（方法論）</u> 工芸科指導法（基礎論） <u>工芸科指導法（課程論）</u>		S 2		3 <u>2</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>3</u> <u>3</u>	
		<u>L 2</u>			<u>2</u>	
		<u>L 2</u>			<u>2</u>	
		<u>S 2</u>			<u>3</u>	
略						
〈技術〉 略 中等技術科指導法（教材論） (新設)		L 2		2		
略						

卒業研究	全コース	卒業研究	S 4			4		

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

		<u>〈保健〉 実践セミナー「保健」</u>	S 2					<u>3</u>
		<u>〈技術〉 実践セミナー「技術」</u>	S 2					<u>3</u>
		<u>〈家庭〉 実践セミナー「家庭」</u>	S 2					<u>3</u>
卒業研究	全コース	卒業研究	S 4			4		

備考 単位数及び授業方法等の欄中「L」は講義、「S」は演習、「P」は実験、実習及び実技をそれぞれ示す。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前に学校教育学部に入学生については、この規程による改正後の上越教育大学学校教育学部履修規程（以下「改正後の履修規程」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正後の履修規程別表に規定する授業科目については、履修することができる。
- 3 前項ただし書の規定により修得した単位は、卒業要件単位に算入しない。

【学内規則集 第7章 教務】

(改正理由)

令和4年度学校教育学部入学生に係る教育課程の一部変更（令和4年度大学改革並びに教員養成フラッグシップ大学への申請に当たり、授業科目を新設及び改廃）に伴い、所要の改正を行うものである。